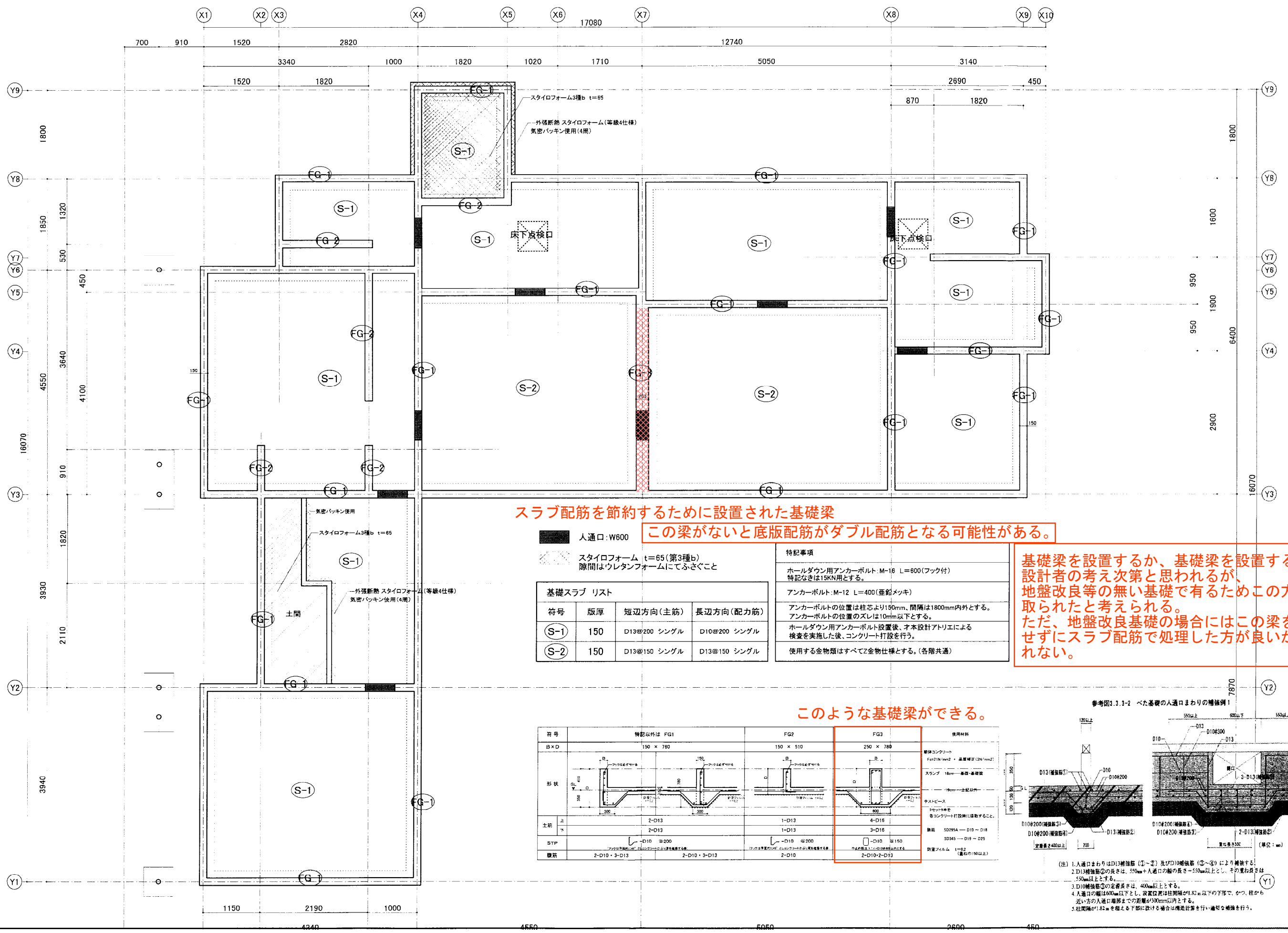


構造計算が行われていると思われる住宅基礎例



スラブ配筋を節約するために設置された基礎梁

この梁がないと底版配筋がダブル配筋となる可能性がある。

人通り: W600

スタイロフォーム t=65 (第3種b)
隙間はウレタンフォームにてふさぐこと

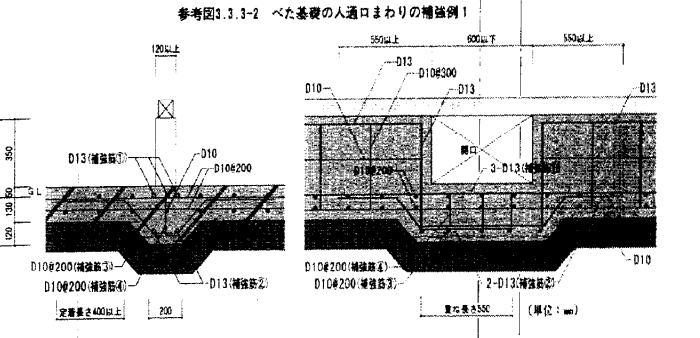
符号	版厚	短辺方向 (主筋)	長辺方向 (配力筋)
S-1	150	D13@200 シングル	D10@200 シングル
S-2	150	D13@150 シングル	D13@150 シングル

特記事項	
ホールダウン用アンカーボルト: M-16 L=600 (フック付)	特記なきは15KN用とする。
アンカーボルト: M-12 L=400 (並ねメッキ)	
アンカーボルトの位置は柱芯より150mm、間隔は1800mm内外とする。	アンカーボルトの位置のスレは10mm以下とする。
ホールダウン用アンカーボルト設置後、才本設計アトリエによる検査を実施した後、コンクリート打設を行う。	
使用する金物類はすべて2金物仕様とする。(各階共通)	

基礎梁を設置するか、基礎梁を設置するかは設計者の考え次第と思われるが、地盤改良等の無い基礎で有るためこの方法を取られたと考えられる。ただ、地盤改良基礎の場合にはこの梁を設置せずにスラブ配筋で処理した方が良くもされない。

このような基礎梁ができる。

符号	特記以外は FG1	FG2	FG3	使用材料
B x D	150 x 780	150 x 510	250 x 780	軽集約コンクリート F _{0.2} (N/mm ²) + 高収縮率 (3N/mm ²) スラブ厚 180mm - 基礎 - 土留め 土留め 土留め
形状				ホールドダウン用アンカーボルト アンカーボルト コンクリート打設時に注意すること 鉄筋 防湿フィルム (1mm厚 留め付 150以上)
土筋	上: 2-D13 下: 2-D13	上: 1-D13 下: 1-D13	上: 4-D16 下: 3-D16	
STP	-D10 @200	-D10 @200	-D10 @150	
配筋	2-D10 + 3-D13	2-D10	2-D10 + 2-D13	



- (注)
1. 人通りまわりはD13補強筋 (①~②) 及びD10補強筋 (③~④) により補強する。
 2. D13補強筋②の長さは、550mm + 人通りの幅の長さ + 550mm以上とし、その重ね長さは550mm以上とする。
 3. D10補強筋③の定着長さは、400mm以上とする。
 4. 人通りの幅は600mm以下とし、設置位置は柱間隔が1.82m以下の下部で、かつ、柱から近い方の人通り端部までの距離が300mm以内とする。
 5. 柱間隔が1.82mを超える下部に設ける場合は構造計算を行い適切な補強を行う。

構造計算が行われていると思われる住宅基礎例